



高名なお坊さん(その17)

良寛(1758年~1831年)

江戸後期の曹洞宗の僧、歌人。越後国(新潟県)出身。名主の家に生まれながらも争いごとを好まず出家し、地位も名誉も捨て、ただひたすら子どもたちと遊ぶことを喜びとした。

生涯無欲恬淡な性格で、生涯寺を持たず、諸民に信頼され、良く教化に努めました。良寛自身、難しい説法を民衆に対しては行わず、自らの質素な生活を示す事や、簡単な言葉(格言)によって一般庶民に解り易く仏法を説きました。その姿勢は一般民衆のみならず、様々な人々の共感や信頼を得ることになりました。良寛は「子供の純真な心こそが誠の仏の心」と解釈し、子供達を愛し積極的に遊んだと云われ、高名な人物からの書の依頼は断る傾向がありましたが、子供達から夙に文字を書いて欲しいと頼まれた時には喜んで書いたと云われています。



良寛堂

また戒律の厳しい禅宗の僧侶でありながら般若湯(酒)を好み、良寛を慕う民と頻りに杯を交わしたそうです。これも形に捉われない良寛の魅力ではないかと思われます。

すべての生きものに愛をそそぎ、老若男女、富者貧者を問わず等しく交流し、人としてどうあるべきかを常に問いかけた良寛の心は、現代にも共通する心として多くの人に共感をあたえています。



良寛の肖像画



良寛像

親鸞聖人



で出家得度されました。その後、比叡山で学問修行に励まれましたが、二十九歳の時、師である法然聖人のお導きによって阿弥陀如来の本願を信じ「南無阿弥陀仏」という念仏の教えに帰依する身となられました。三十五歳の時、念仏弾圧により越後に流罪となつた後、関東に移つて念仏の教えを弘められ、晩年は『教行信証』等多くの著述に力を注がれ、九十歳で京都にて往生されました。忙しい今の時代ですから、敢えてタイムスリップの如く、往時の親鸞聖人を思い、先祖に思いを馳せたり、祖父母や父母の情に感謝の心を廻らせてみてはいかがでしょうか。

住職レター

今月(五月)、有名な方の誕生日を迎えますが、どんなにか分かりますか? 最近では、家族の誕生日さえ、うっかり忘れていた!なんて、大失態を犯してしまつたと、お聞きする事もあります。それだけ、個々人、忙しく今の時代を生きているのでしょう。

誕生日をお迎えされるお方様は、親鸞聖人です。

一二七三年五月二十一日にお生まれになりました。そして何と今年、二〇二三(令和五)年は、ご誕生から八百五十年目にあたります。

京都へ行かれるご縁がありましたら、本願寺へお参りになつてみて下さい。親鸞聖人御誕生八百五十年慶讃法要が勤まり、各地でお祝いの行事や「協賛行事」が開催されているようです。今更ですが、親鸞聖人は京都日野の里でお生まれになり、九歳

GW 4.29(土) / 5.6(土) / 5.7(日)

記念法要・協賛イベント

in 西本願寺

参加無料

先行予約受付中

【世界文化遺産】西本願寺マインイベント盛りだくさん!

Special release

Tea reception